

はくさんさん

静かに思う

第67号 平成20年11月

伊豆市法住寺 瓜島信行 発行

当山の白龍会が、東京池上本門寺の万灯行列に参加しました。会長の小塚順一さんを中心に、九月に入って毎週二回の練習。纏は夜の十二時近くまで、毎晩のように手づくりしていました。

そしていよいよ当日、行列は夜の六時に出発、四時間近くの行列、帰宅は深夜になりましたが元気に帰ってきました。

その翌日から、うれしい話が届き始めました。

*

池上から帰った翌朝のこと。参加した若い方が、近所の方に「すごく感激した!」と、目を輝かせて話し、そして「ありがたかった」と語ったというのです。行列が本門寺の山門をくぐった時の天空に突き抜ける清浄な輝き、体の底から込上げてくる歓びを感じ、お祖師さまを体の中に感じたの

だと思ったのです。

*

数日後、別の方からの話です。知り合いに池上万灯に参加した話をする、「私のお寺じゃあ、何にもないけど、いろいろあって大変だら」と訊かれたそうです。すると「大変というより、歓びの方が大きいさあ」と、素直に気持ちを話したのだそうです。



日頃から生活の中に法華経・お題目を広めている(つもり)の私にとって、これこそ活きたお題目だ!と歓んだのでした。

*

最初は、あまり気がすすまなかったけど誘われて池上に行くことにした若い方。行くなら少しは太鼓も打てなくちゃと練習に参加。すっかり気に入って、池上では全開。いろいろな迷いもあって、遠回りしてきたけど、参加できて本当に良かった。これからすすんでお寺の活動に参加させてくださいと話してくれました。

*

池上に息子さんと参加された中年の男性は、当山の御会式にもご家族で参加。お孫さんは清らかな明かりを大切に献灯してくれました。「蓮の花」の澄んだ歌声が流れる中、けなげな子供たちの献灯は毎年感動します、涙する方もいました。その男性は「家族で一つのことをして、共通の話題ができて、良いですよ」と、嬉しそうに語ってくれました。この他にも親夫婦、息子夫婦と一緒に池上に参加し、当山の御会式には孫夫婦曾孫までも加わり、四世代参加のご家族もありました。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

家庭の中にお題目が穏やかに伝わっていることを実感しました。

*

今、静かな季節を迎え、落葉する樹木のように穏やかに過ごす時を迎えています。社会は様々に変化していきませんが、どんな変化にも彷徨うことのない真の法・お題目が、私たち自身の心にあつて大黒柱として支えてくださり、何時でもおすがりできることの安心、「ありがたさ」を、静かに思っています。

時は薬

あの夏の暑さが思い出せない程、冷たい風を感じるこのごろとなりました。秋の幾つかの大きな行事を終え、今、また静かな時を迎え様々なことを思い出しています。『時は薬、時間は仏さまの与えて下さった薬、そしてその時に得たものは宝物と。』

今日は、最愛の息子さんを亡くされ、長い間お詣りをされてきたご両親から届いたお手紙を、了解を得て記載させていただき

ます。

*

「炎熱のみぎり、日頃は大変お世話になっております。

私も家族で忘れることの出来ない八月、息子の命日が今年もめぐってきました。今年は十三年の命日を迎えることとなり、御前さまに法要をして頂きたく家族でお伺います。本来ならもっと早く法要を行うべきでしたが、私の病気により思わぬ事態が起きてしまい、この時期になりました。

*

思い出すことは息子の突然の死で、言葉にはできない精神的苦しみから這い上がる事が出来たのも『法住寺 信行上人、昌子さま』との出会いでした。息子の死がこんなに信仰の心の支え・生きる源になるとは思いませんでした。毎月のように息子に会いにお墓詣り、法住寺さまに伺いしご住職ご夫妻の毎回のお話をいただき、段々と勇気が生まれ生活できる様にもなりました。一年を通じて春の彼岸、夏の施餓鬼会、秋彼岸とお伺いし塔婆をあげて参りました。法話の中で『常懷悲観 心遂醒悟』の言葉が心に沁み渡りました。

毎朝、仏壇に向かってお題目をお唱えす

ことで、生きる活力と感謝の心を頂きました。どんな時でも年四回のお墓詣りを行うことができ、自宅を出る時はなんとも重い身体ですが、箱根を越すと段々と何かに引かれるように力が出てきます。ご本尊さま・お祖師さまに手を合わせてお題目をお唱えすると、ほっとした心で身体が軽くなります。その清々しい心持ちは安堵感で一杯になる思いです。

*

これから第二の人生、私自身の病気を支えながら、夫婦二人で毎日を心豊かに過ごしていく為にも、苦しい時には何としても乗り越える力となりますよう、お題目をお唱えし歓びに結びつくように生活していきたいと思えます。

ご住職さま、昌子さまご夫妻には、大変なお力添えを十三年間頂戴し感謝にたえません。御礼申し上げます。また今後とも、ご指導を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。」

*

その折、私の出した返事も記してみました。

「拝復 立秋の声を聞き、暑さはまだまだしのぎ難いのですが、風は秋の気配を感じさせ夜は秋の虫が鳴いています。先日のご法事の折には、皆さまお揃いでお詣り下さり、何よりご子息・仏さまのご供養となつたことと思います。又その折、様々なお心遣い賜りまして、ありがとうございました。」

*

頂いたお便りに「十三年間、いろいろなことがありましたが、……」とあり、私なりに振り返ってみました、この十三年間、共に心寄り添い、歩ませて頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

お便りに『常懷悲観 心遂醒悟』とありました。この一節に支えられ、一步一步、歩まれた尊い時間が、これからも何かを乗り越えてゆく時に、大きな勇気となり、力となつてくれることを願つてやみません。お心のこもつたお便りを頂き、私たちの励みとなり、そして宝物となりました。どうぞ、これからも宜しくお願い申し上げます。

*

そして奥さま、住まいは遠く離れていますが、「心はそばに」と思つてやみません。お元気でいらして下さいませ。只今、住職

は、京浜地区の棚経に回つております。お返事が遅れましたが、くれぐれも宜しくとのことでございます。まだまだお暑い日々、どうぞご慈愛下さいます様、心からお祈り申し上げます。」

秋の境内整備作業

九月十四日、秋の境内整備作業が行われました。今回は西地区の皆さんのご奉仕でした。境内周辺の草刈りと裏口道路吹付け斜面際の雑木を処理して下さいました。急斜面上部の樹木伐採は危険を伴う作業でしたが、思ったよりはかどりました。これも皆さんが気持ちを合わせてくれたお蔭と、感謝申し上げます。

伊豆連合大題目講

田方地区のお題目の檀信徒が集まり、お互いに励まし合い信心を深めることを目的とする伊豆連合大題目講の年例会が十月四日日、当山で行われました。当日は、長岡



中野宗会議員さまの祝辞、そしてお題目修行。

その後、三人の若いお上人の法話がありました。世の中の動きをリアルタイムに取り入れたり、大勢の前では今日が始めての法話だったり、一生懸命でした。参拝者には若い方も多く、同世代の話しにうなずいたり、孫や息子の話を聞くように楽しげだったり、と、意義深い秋の一日でした。

これからの行事



護法大会

十一月三十日(日) 東部宗務所主催
会場 修善寺総合会館

参加費千円、バス代千円 合計二千円

中伊豆立正会大題目

十二月六日(土)午前十時

会場 法住寺

年末境内整備作業

清水①地区のご奉仕です。



洋明さんのおはなし

勇猛果敢な纏(まとい)、心の中まで響いてくる太鼓と鐘の音。私が学生の時、初めて池上本門寺の御会式にお参りし、万灯行列の活気に圧倒されてから、早や十年。

そのとき、『ぜひ法住寺でもこの万灯行列



合いたい。』と感じたことを憶えています。その念願が叶い、今年法住寺白龍會で初参加、ご供養させて頂きました。

*

世の中には一人の力ではどうにも出来ないことが沢山あります。この万灯講も参加者はもちろん、応援して下さる方々、何

に参加したい、そして生きる力、元気を頂き、また周りの方々と分かち

*

まさに今回は、その通りでした。仕事や地区行事が忙しい中、週二回の練習に参加してくれた皆さん、纏作りに毎晩夜十二時まで情熱を費やしてくれた若手の皆さん、参加できなくても万灯行列を応援してくださる壇信徒の皆さん、会員の家族の皆さん、その一人一人の気持ちが一つになってお祖師さまに伝わり、今回の万灯行列が円成出来たのです。

多くの方と池上にお参り出来たご縁、『異体同心事』を共に実感できたご縁、いろいろな多くのご縁を通じ、やはり皆さんの中には日蓮大聖人・お祖師さまがいらつしやることを感じました。報恩感謝、本当にありがとうございました。

*

これからも、皆さんと一緒に頂いたこのご縁を大切に、池上のお祖師さまの前で、皆でお唱えした力強いお題目のように、心の闇や迷いの雲を晴らす様な万灯行列を供養していきたいです。

御志納金「七月〜十月」

三十万円	大田区 小塚 剛史殿	弟君葬儀の砌
二十万円	元村 飯田 昌之殿	尊父葬儀の砌
二十万円	元村 伊東はつ江殿	夫君一周忌の砌
十万円	清水 山本 宏衛殿	墓地移転改葬の砌
十万円	元村 山下 要殿	尊父一周忌の砌
五万円	元村 三田よし子殿	夫君五十回忌の砌

より日蓮大聖人・お祖師さまに頂いたご縁で成功を修めることが出来たと、あらためて有難く感じていきます。お祖師さまは御遺文『異体同心事』のなかで、「異体同心なれば万事を成し、異体異心なれば諸事叶事なし」一人の心なれども二の心あれば、其心たがいて成ずる事なし。百人千